

3-2

地区の災害リスクと災害対応力を知る・考える

平野区編

(2) 平野区の社会的脆弱性を知る

生田 英輔

平野区の災害脆弱性を考える上で、平野区という地域の特性を知る必要があります。平野区は大阪市の東南部に位置し、人口は市内で1位の200,005人(H22国勢調査)、区域面積は市内で3位の15.30平方キロメートルとなっています。人口密度は大阪市平均の11.74千人／平方キロメートル(H12国勢調査)をやや上回る13.18千人／平方キロメートルとなっています。区域面積の1位と2位は住之江区と此花区といった埋立地の多い区で人口密度も低くあり、平野区は市街地としては大阪市で最大の面積と言えます。広大で人口の多い平野区は住居地域としての色合いが強く、南部の喜連・瓜破・長吉地域は比較的新しいまち並み、中央部の平野地域は歴史あるまち並み、北部の加美地域は工業地区となっています。地域防災において単位となる地域は22地域で中央区について第2位の地域数です。

高齢化率(H22国勢調査)では区全体では大阪市平均に近い24.1%となっていますが、地域毎では瓜破北、長吉六反東、長吉東部が40%を超えています。一方、瓜破西、長吉西部、新平野西は20%を下回っています。町丁目毎の高齢化率を図1に示します。この図からも区内南東部に高齢化率の高い地域が多いことがわかります。

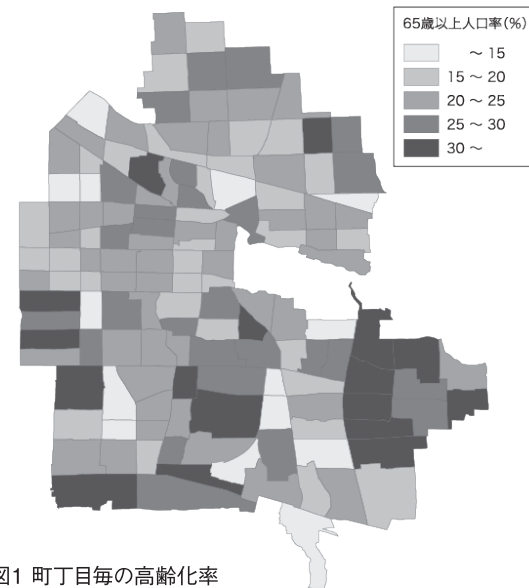


図1 町丁目毎の高齢化率 (65歳以上人口率)

つぎに単身世帯率を見ます。単身世帯は”身軽”ではあるものの、地域コミュニティと関わっていない、近隣住民との付き合いが希薄、地域の状況に詳しくないなど、災害時にデメリットとなる可能性のある特性も持ちあわせています。効果的な共助のためには以下に単身世帯を地域防災活動に巻き込んでいくかが課題ですが、現状では不十分な地域も多いかと思しますので、地域ごとの単身世帯率を比較します。平野区全体では単身世帯率は34.2%となっていますが、長吉六反東47.3%、長吉東部41.4%、新平野西43.3%、平野西40.4%と複数の地域で40%を超えています。一方、長吉六反23.5%、瓜破西23.0%と低い地域もあります。先ほどの高齢化率と比較します

と、長吉六反東、新平野西は、高齢化率および単身世帯率が高い地域ということがわかります。一方で、瓜破西は高齢化率および単身世帯率が低い地域ということがわかります。町丁目毎の単身世帯率を図2に示します。この図から、先ほどの地域単位とは少し異なり、区北西部で単身世帯率が高いことがわかります。区北西部にはJR平野駅、大阪市営地下鉄平野駅があり、交通至便であることも理由と考えられます。

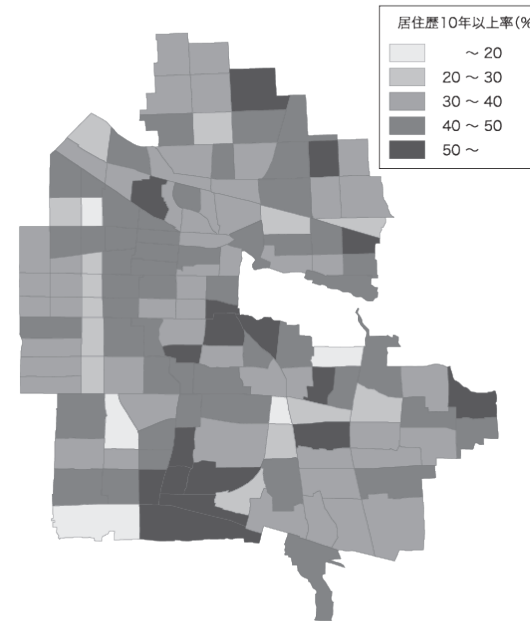


図2 町丁目毎の単身世帯率

共助活動において、まず必要とされるのは地域を知っているかということです。地域の危険箇所を知っている、避難経路を判断出来る、地域住民の顔がわかるという住民が多いほど、共助活動は威力を発揮すると考えられます。従って、同じ地域に居住している年数が長い住民の比率も災害対応に影響を及ぼす可能性があります。20年以上の居住歴のある住民の比率は区全体では26.2%となります。最も高い地域は長吉六反東で46.1%、ついで瓜破北で44.1%です。最も低い地域は長原東で17.8%、ついで長吉東部で18.1%となります。町丁目ごとの居住歴10年以上比率を図3に示します。この図から区中央部、南部の

比率が高いことがわかります。

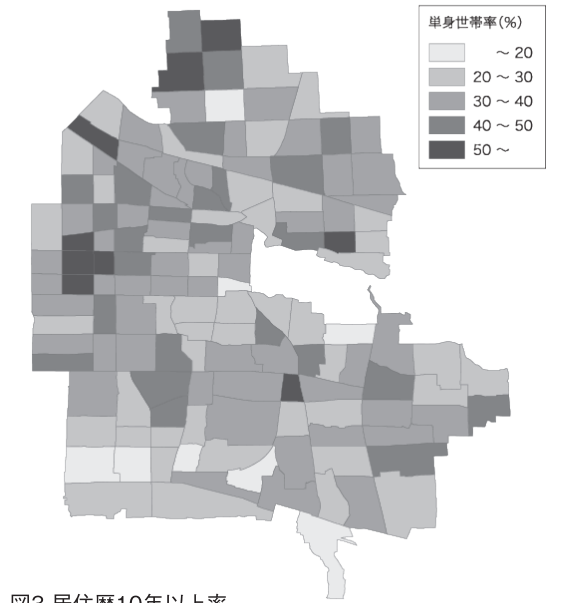


図3 居住歴10年以上率

本稿では国勢調査に基づく分析となりますが、種々の公開データから地域の特性を把握し、災害脆弱性を評価した上で、地域防災活動に活用していただくことが求められています。

大阪市ホームページ
<http://www.city.osaka.lg.jp/>

平野区ホームページ
<http://www.city.osaka.lg.jp/hirano/>